

校長室の窓

14-10号 (22号)
2015, 1, 22
長野県蓼科高等学校長
金原 正

遅まきながら、

明けましておめでとうございます

蓼科高校は今年も元気にスタートしました。昨年に引き続き、
よろしくお引き立て下さいますようお願い申し上げます。

茶華道部作品→



保科百助(五無齋)先生採集の岩石標本③

保科百助先生採集の岩石標本第三弾をお届けします。横積み
の木箱に納められますが、箱書きはなく、以前に紹介したものと異なり採集日
も記されていませんので、作製された具体的な時期については不明です。一つ
一つが7cm×9cmの紙箱に入れられ、一段24個×5段、計120個の資料が整然
と納められていますが、残念ながら一部欠損しています。産地は南信地方を中心
にしながらも、ほぼ全県に渡っています。説明のラベルも前二例とは異なり、岩
石名・時代・成因・成分・産地・用途が一枚ずつ印刷されています。例えば、整
理番号1番の黒雲母片磨岩くろうんもぺんまがんを例にとってみます。

1 黒雲母片磨岩

- 1, 時代 太古大統
- 2, 成因 変成
- 3, 成分 黒雲母(黒六角板)、石英(鼠色不規則粒)
長石(白不規則粒)
- 4, 産地 上伊那郡高遠町
- 5, 用途 無し

説明がより詳細となり、用途を説明することにより岩石をより身近に捉えられ
るように考えられています(例えば、石材として使われるとか、浴室でも用いら
れるとか等々)。詳しいことは専門の先生方に譲るとして、おそらく明治42年
(1909年)から採集活動を始め、翌年に完成・頒布した第二次標本に当たるもの
ではないかと思われまます。





3回に渡って保科先生採集の岩石標本を紹介してきました。私は石のことはよくわかりませんので、個々についての詳しい紹介はできませんが、全体として保存状態も良く、保科百助研究、教育史研究、長野県の岩石や地質の研究等々、様々な分野で貴重な資料であることは間違いありません。学校の宝として、地域の宝として、大切に保存しつつ、有効に活用していくことが大事であろうと考えています。

新学期の学校の様子

先生方も書き初めをしました



始業式の日、実力テストの後で先生方有志が書き初めに臨みました。寺尾先生の指導のもと、真剣に筆を執っていました。

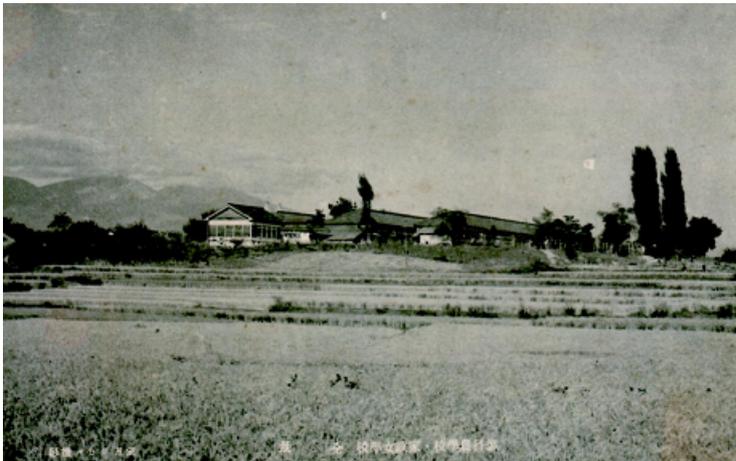
音楽～エンジョイミュージック～



1月16日（金）の総合的な学習の時間では、宮澤先生の教え子である東京芸術大学の学生さんが来校し宮澤先生のピアノとのコラボでトランペットの素晴らしい演奏を披露してくれました。

写真(絵はがき)に見る蓼科高校の歴史

蓼科高校は来年度（平成27年度）、創立115周年を迎えます。手元に創立40周年の際に作製された紀年（ママ）絵葉書がありますので紹介します。



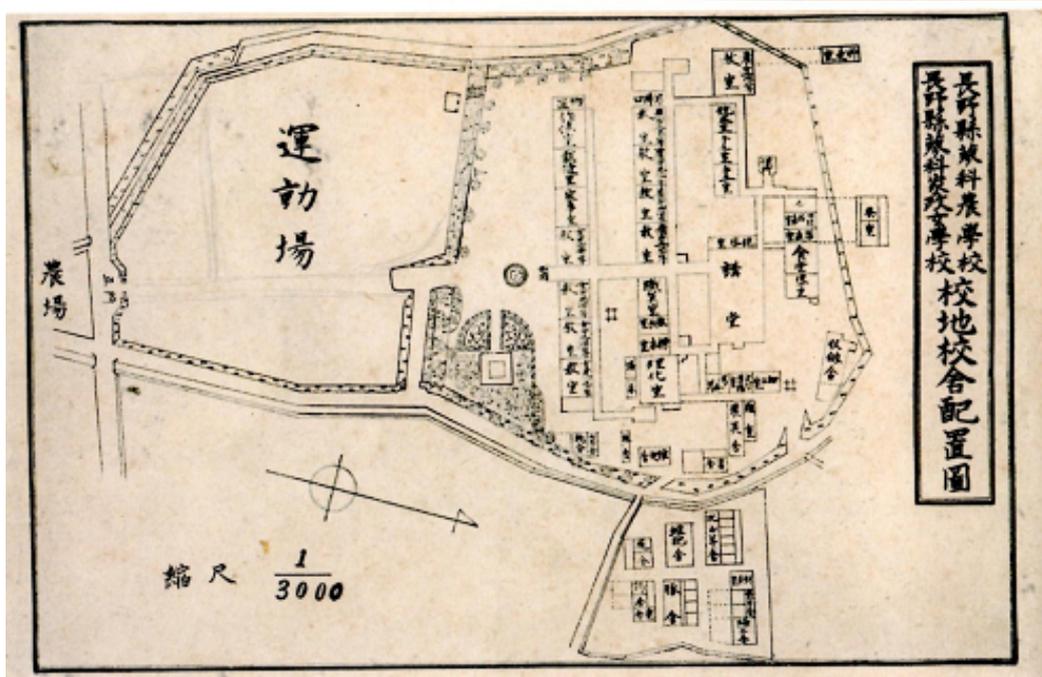
1940年（昭和15年）頃の本校の様子です。当時は、蓼科農学校と蓼科家政女学校とが併設されていました。農学校の方は乙種から甲種に昇格した時期に当たります。今の様子と比較しながら、当時の面影を偲んでみて下さい。

←全景、西側から撮影されたものです。創立当時に植えられた2本のポプラの木がその雄姿を見せています。

下の校舎配置図を見ると、基本的な配置は現在に引き継がれていることがわかります。正門はグラウンドの南西隅にあり、通用門は現在グラウンドから玄関方向に昇るコンクリートの階段部分にあったようです。写真の右隅にポプラの木が見えます。

通用門→

生徒達の服装は学生服・学生帽が基本で、自転車で通学する姿も見られます。



これらの絵葉書は、町内在住の竹花初雄先生から、以前に寄贈されたものの一部です。